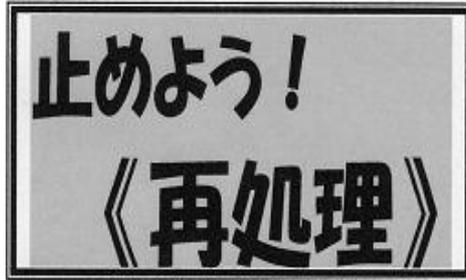


三陸の海を放射能から守る
岩手の会
ミニコミ通信 第14号
ホームページ
(岩手の環境 / RI廃棄物 / 再処理)
郵便振替 02240 - 5 - 102650



2006(平成18)年
3月3日
編集事務局 S.Oshida
電話・ファックス
019-623-1636

= 海洋汚染は絶対あってはならない =

原燃による説明会要請

増田知事 県議会で答弁

二月二十八日開催された二月岩手県議会本会議において、増田寛也知事は、小原宣良議員(政和 社民クラブ)の「請願採択を受けて、日本原燃に岩手県民へ説明するよう要請する考えはないか」との質問に対して、岩手県の水産業を守るために廃液による海洋汚染は絶対にあつてはならない。日本原燃に対し、本県漁業関係者らに説明する機会を設けるよう要請する。スケジュール優先ではない」と答弁しました。

時期はいつかとの再質問に、増田知事は「早急に説明する機会を要請していきたい」と答えました。

この答弁は、岩手県知事が再処理工場の廃液による三陸の汚染を認めず水産業を守ることを確約し、県議会の請願採択の方針を受けて、局面を打開するものとして歓迎出来ません。

岩手県漁連 要望書を増田知事に提出

県漁連は三月三日、六ヶ所再処理工場の試運転に関連し、本県沿岸域の漁場保全などを求める要望書を増田知事に提出しました。

内容は、沿岸域の海洋環境調査体制を強化するよう国、日本原燃に働きかける。国、原燃が本県漁業者の説明会を行うこと。県と日本原燃に対して漁場保全と水産物の安全を確保するよう適切迅速な対応をもとめる、の三点です。

宮古市議会

核燃再処理請願採択

青森県等意見書提出

二月二三日開催された宮古市議会本会議において、再処理による三陸沿岸の汚染についての請願が、四九名の市会議員の圧倒的多数の賛成によって採択され、青森県や原燃へ「意見書」として提出されました。

意見書は、岩手県民、

特に沿岸漁業に携わる県民に説明し、意見を聞くこと。説明・意見聴取が済むまで、日本原燃と安全協定を締結しないこと」という内容です。

二月二七日、三上敏議長、飛澤武美副議長らが青森県庁を訪れ意見書を手渡しました。

青森県説明会に

岩手からも参加

青森県による核燃再処理試験説明会は二月二五日、二七日まで、県内六箇所で開催されました。岩手からは、青森に一人、六ヶ所に二人、八戸に五人、むつに一人、弘前会場に四人が出席しました。歌とギターでアピールしチラシ千枚を配る行動も行いました。

各会場とも青森県、日本原燃の他に原子力安全委員会、原子力安全保安院、内閣府、電気事業連合会など二十余人が壇上にならび、参加者は百四十人前後という状況でした。一時間半ほどの主催者側の説明が続き、質問回答の時間は四十分ほどで、県外の参加者の発言は制限されました。八戸会場では、閉会間

際にやっと発言が許され、岩手へ来県し説明すること。三陸の環境評価を行うことを要請しました。

弘前会場でも、実効線量は四万七千人分の経口致死量に当たるのではないが、核種ごと放出基準が在るのかなどを質問しましたが、回答はありませんでした。

ヨリ素の濃縮 魚で三〇倍 海藻で二千倍

日本原燃回答

二月二二日、青森県議会全員協議会が開催され、審議の様子を「東奥日報」が伝えました。「生体濃縮の懸念」についての質問に、日本原燃は「国の安全審査では、周辺の魚や海藻類で濃縮される事を織り込んで線量評価をした。例えば、ヨリ素は海水濃度に対して魚で三〇倍、ワカメやコブなど海藻類で二千倍になると説明しました。イギリス政府機関は、魚では五〇倍、一八〇倍(シウラム)の数値を採用している。

「海を汚されては 困るんです！」

みんなで声をあげよう

水口憲哉先生(東京海洋大学名誉教授)

山田 釜石 気仙沼リレー講演会



「みんなで守ろう 豊かな三陸の海」をテーマに、水口憲哉先生の講演会が三陸沿岸で開催されました。



たまたました。

二月二十六日午後二時から山田町中央コミュニティセンターには約一五〇人、六時半からの釜石市港湾労働者福祉センターには約三〇人、翌二十七日、気仙沼市福祉センターやすらぎには約六〇人が集まり、講演に耳を傾け、意見の交換を行いました。



した。

講演会はそれぞれ豊かな三陸の海を守る会「水産グループ21」釜石生協運動有志、「気仙沼地域漁民有志」など、自発的な個人や団体の呼びかけによって実現しました。「海を汚されてはならない！」として行動を起こした人々による手作りの講演会は予想以上の参加者でした。(同行取材、尚)

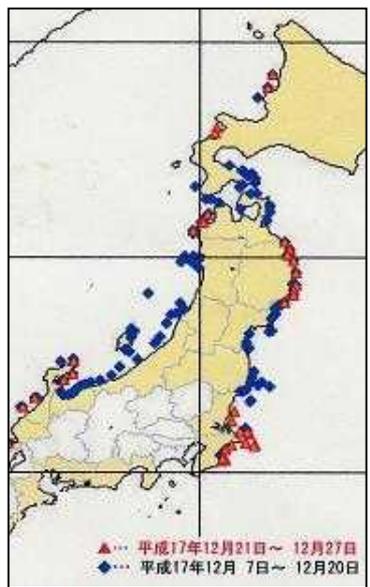
講演抜粋

海中放出口には 危険で近づけない

昨年十一月二十六日の岩手日報に「本県漁業者不安募る」という見出しで、六ヶ所再処理工場の記事が大きく報道されました。「四万七千人分以上の経口致死量」と「岩手の会」が指摘したのに対して、原燃としての反論

大型クラゲ目撃情報マップ

十二月には 千葉県沖まで南下



が載りました。それは「放射能廃液は流すが」大量の水で薄まる。直接飲むことはあり得ない安全である。」といったものでした。これは反論になっていません。

まず「飲むどころか、放出口には近づく事も出来ない程の放射能廃液」である事を隠しています。ラアーグの海底放出口付近は通常放射能の千七百万倍の放射能です。遠く飛ばして見えなくする

二月二十日の朝日新聞全国版は「岩手の住民は海が汚されるとして署名を八七〇〇人分集め青森県に提出した」と報じました。そしてこの記事には六ヶ所再処理核燃料サイクル図が示されています。

ます。それを見ると煙突には「放射性物質の一部は大気へ、排水には放射性物質の一部は海へと明示されています。」

原燃が隠し続けてきた「放射能垂れ流し計画」が初めて全国報道されました。放射能廃液は

薄まることなく、海流によって三陸の海岸に向かって南下し滞留することは



独立行政法人(水産総合研究センター)が集計している「大型クラゲ目撃情報マップ」はインターネットで見られます。夏に日本海側に現れた越前クラゲは津軽海峡を通過し三陸沖を南下、現在は千葉県沖合に達しています。放射能廃液も同じに流れます。

明らかです。漁民や消費者の無数の声が海を守る

岩手日報夕刊論壇、二月二三日には「放射能の風評被害」(宮古・漁業)、二四日に「拝啓 県漁連様」(盛岡市 主婦)といった投稿が載りました。実によく情報を集め考えられています。

海で生活する漁民、安全な海産物を願う消費者がこのように全国各地で声をあげてゆけば、必ずや海は放射能汚染から守られます。

ビデオ三陸リレー

講演会の記録(四五分)
六ヶ所通信番外編
鎌仲ひとみ監督
グループ現代制作
03-3334-12863
定価三五〇〇円